特集 農業用ハウスの雪害防止対策

1　平成２６年２月の大雪被害

平成26年2月14日～15日にかけて、低気圧の接近、通過により、記録的な大雪となった県内の最大積雪深は、甲府で114cm、河口湖で143cm　に達し、統計開始後最大となりました。前週に降った残雪も加わり、農業用施設の倒壊や損壊など、過去最大の被害となりました。

被害は、単棟ハウスでは、①アーチ部分の陥没、②ハウスとハウスの間に落ちた雪による側圧で、損壊したものが多くなりました。また、連棟ハウスでは、①、②に加え、③谷部分に積もった雪の重さで倒壊するものが数多く見られました。ビニールトンネルでは、スイートコーンの早出し栽培などで、④トンネル支柱が折れて、倒壊する被害が発生しました。

パイプハウス屋根の陥没

ハウスとハウスの間に落ちた雪による側圧で倒壊

2　農業用ハウスの大雪への対応

被害を回避した施設は、雪が降る前からの対策を実施しており、事前準備の重要性が再確認されました。

対策として最も重要なことは、屋根に雪が積もらないようにすることで、降雪初期からハウス内を暖房し、融雪を促す必要があります。このため、暖房機はハウス面積にふさわしいものを設置するようにしてください。

ハウスの保守管理については、次のチェックリストを参考にして、適切な対策を行ってください。また、降雪中、降雪後の作業は、危険を伴うので人命を最優先に行ってください。

大雪に対する技術対策は、「農業用ハウスと果樹棚の雪害防止対策指針」を参考にして下さい。

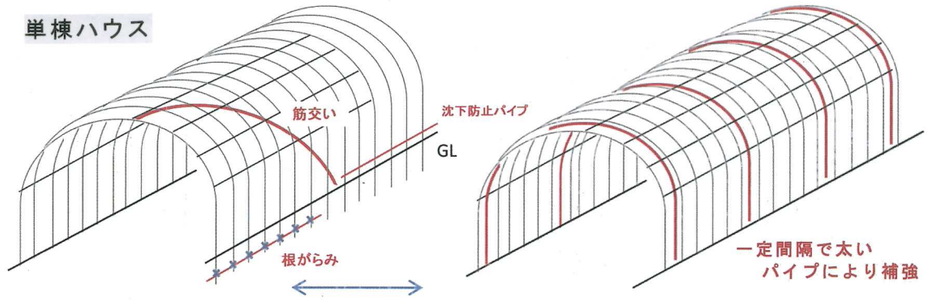
■降雪対策のチェックリスト

時　期	チェック項目	チェック
冬になる前	収穫の終わったハウスの被覆は除去、収納しておく	
	防鳥網や防風網など、着雪しやすい資材は取り除く	
	ハウスの補強、基礎や接続部、腐食しやすい部分の点検・修繕を行う	
	加温機の点検を行う	
降雪予想時	常に最新の気象情報を入手する	
	加温機の燃料を確認し、早めに補給する	
	ビニールの弛みなどを点検し、必要に応じて補修する	
	除雪に備え、ハウスの周囲を片付けておく	
	大雪に備えて支柱などの補強資材を設置する	
大雪予想時	準備した支柱などでアーチや谷を補強する	
	除雪に必要な道具を準備しておく	
降雪直前	早めにハウスを密閉し、内部の温度を確保する	
降り始め	加温機の稼働状況を確認する	
	二重カーテンを開放し、融雪を促す	
降雪時	ハウスへの着雪状況を確認し、早めに除雪を行う	
	ハウス間に落雪した雪が多い場合は除雪を行う	
降雪後	倒壊の恐れのあるハウスには近づかない	
	除雪と損壊箇所の点検を行い、必要な修繕を行う	

(http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/documents/setsugaitaisaku_honnpen.pdf)

建設の際の補強方法

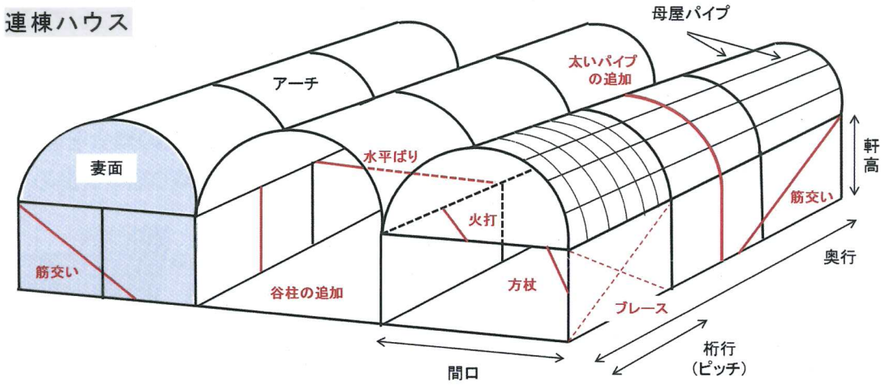
単棟ハウス



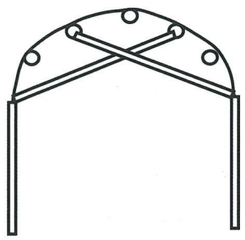
※設置間隔をあける

施設本体の補強とともに、ハウス間の落雪による倒壊を防ぐため、
ハウスとハウスの間隔は広めにとるように留意する（左ページの右写真）。

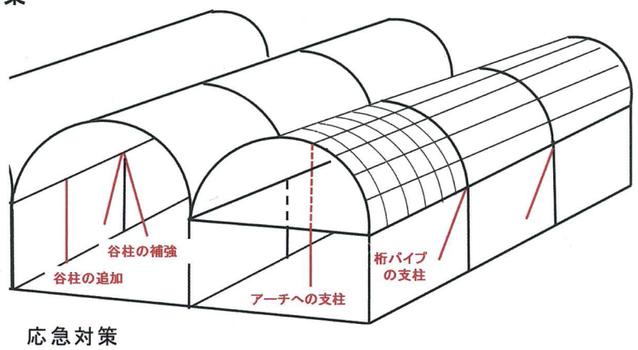
連棟ハウス



既存ハウスの補強、応急対策



アーチの補強
３ｍ間隔を目安にパイプ、
針金などで補強



応急対策
十分な補強対策が施せなかったハウスでは、応急的に
柱やアーチに支柱などを追加して、積雪に備える。

「農業用ハウスと果樹棚の雪害防止対策指針」より一部抜粋

雪害防止対策研修会を開催

総合技術普及センターでは、平成26年11月13日に園芸用ハウスの雪害防止対策の徹底に向けて、普及指導員を対象にした研修会を開催しました。開催場所は南アルプス市西南湖の建設中の野菜用ハウスで、各普及センターの普及指導員、約30名が参加しました。研修会では、実際の再建ハウスを見学しながら施工業者の（株）明友機工の担当者から、耐雪型ハウスの構造や特徴、施工のポイントなどについての説明を受けました。

耐雪型ハウスの構造や特徴について研修を受ける